

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470800929	事業の開始年月日	平成16年4月16日
		指定年月日	平成16年9月1日
法人名	有限会社 ビリーブ		
事業所名	リングリング		
所在地	(〒236-0051)		
	横浜市金沢区富岡東6-4-29		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	5 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成30年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月4日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当ホームは民家で横浜とは思えない住宅地にあり、時の流れが止まったような雰囲気です。裏には畑があり自家製の野菜を皆で食べたり、季節の花を楽しんだりしています。5人と少人数なので一人一人に合わせた対応ができ、時間がゆっくりと流れて行っています。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年2月26日	評価機関 評価決定日	平成30年5月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、京浜急行京急富岡駅から徒歩で3分ほどの、緑に囲まれた路地の中にある。1ユニット5人の小さなグループホームで、法人名ビリーブは人との信頼関係を大切にしている。また、グループホーム名は「リングが二つ」で「無限大」をあらわし、「信頼が作りだす人間関係が無限大の支援を可能にする」という大きな意味が込められている。</p> <p>【ゆったりした生活】 事業所の周辺には古い民家が数件残り、一瞬タイムスリップしたかのような感覚に陥る。家族のような信頼関係で結ばれることを目指しており、利用者と職員は恵まれた環境の中でゆったりとした時間を過ごしている。広い庭に畑を持ち、四季の花々に囲まれて過ごす利用者の表情は明るい。</p> <p>【おいしい食事】 メニューは季節感や彩りを考えベテランの2名の職員が作っている。食材は、家庭同様できるだけ旬の素材を安く仕入れることを考え、管理者が買い物に出かけている。夏場は敷地内の畑で作る旬の野菜が食卓に上る。 食事は利用者に好評で、体重増加につながってしまった。そこで増加しすぎないように職員の提案で、量を減らしても満足感が得られるように食器をおしゃれな3点盛りができる物に変え、適量の提供に努めている。訪問時も職員と利用者は同じテーブルで楽しげに話しながら食事をしており、家庭的な雰囲気がある。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	リングリング
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を利用者に説明し、納得してもらい職員全員で取り組んでいる。	平成16年に開設した当時に作成した理念を簡素化し、今に伝えている。パンフレットに明記し、利用者や利用者家族にも説明している。業務日誌の裏表紙に添付し、玄関に掲示している。問題が起きた時には、定例会などで理念に立ち返り判断している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の一員として町内会主催の防災訓練、清掃活動、お祭り等の行事に参加している。	町内会に加入し防災訓練や掃除当番に職員が参加している。秋祭りや公園清掃などは利用者と共に参加している。散歩の際に挨拶を交わしたり不要なものを寄付してもらったりと、近隣の方とは親しくしている。誕生日会に三味線ボランティアの来訪があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は、スタッフ・利用者共にこちらの方から挨拶するように心掛けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、ホームの行事や近況報告を行っている。地域の方や包括の職員との意見・情報交換の場としてサービス向上に活かしている。また、ご家族の参加により直接的な意見や質問をいただく場となっている。	2カ月毎に町内会会長婦人、民生委員、地域包括支援センター職員、生活保護のケースワーカー、利用者家族などの出席を得て開催している。事業報告の他、スプリンクラー設置の件やボランティア派遣などの相談をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	内部での判断に困った時には運営推進会議で相談している。生活保護の人のことは随時保護課の担当者と連絡を取っている。	横浜市の集団指導講習会や研修などに参加している。横浜市とはスプリンクラー設置に関して何度か相談に窓口に行った。金沢区の高齢福祉課に運営推進会議の議事録を郵送している。生活保護受給者の相談にケースワーカーと連携している。保険所の感染症対策の研修に毎年参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止の基本法令遵守マニュアルを職員全員が把握し研修・勉強会での内容を理解の元に生活支援を実践している 日中玄関の施錠はせず、人感センサーを設置して出入りを配慮している。	虐待防止に努め、毎年研修を行っている。薬についても医師と相談し、極力減薬に努めている。言葉かけはその人その人に合った言葉をカンファレンスで共有するように努めている。玄関はいつでも開放しており、出入りにチャイムが鳴るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を遵守するため業務日誌・掲示場所に5項目の虐待事例を意識付けの為提示している。会議での勉強会を都度実践し絶対に虐待行為を行うことの無い様、共通認識としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見人制度」の外部研修に参加した職員が勉強会を開き、職員全員が根拠を理解している。必要に応じて関係者と話し合い区役所の担当や包括に相談して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族様には面接時に十分な説明をして納得・理解してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所時に、近況報告や状況変化について報告し、その都度ご家族の意見や要望を聞いている。すぐに対応の変更が必要な時は電話で報告している。	本人本位に支援しているため、意見は主に本人に聞いている。家族にはお便りに近況や写真を添えて送付している。家族のいない利用者も多いため、家族交流会などは行っていない。廊下と居室の段差を直せないかという意見があったため、すぐに改善に取り組んだ。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員全員参加による定例会議を開催して職員の意見や提案を聞いている。毎日連絡ノートを活用している。緊急性のある場合は緊急会議を行っている。	月に1回の定例会で職員の意見を聞いている。ベテランの職員が多いため、それぞれが工夫し合って改善している。連絡ノートや口頭でアイデアを出すこともある。体重増加の利用者が増えたため会議で話し合いをして食事量を見直すことになり、食器を買い替えた結果、減量に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話、会議で職員の希望等を聞き、希望に添えるように努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合ったレベルの研修を希望により受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他ホームの施設長に連絡を取り疑問等のあった場合は意見を交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントで、利用者さん本人の希望をよく聞くようにしている。 言葉に出せない不安な気持ちを汲み取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちに寄り添い、できる限り要望に応えたいと努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望に応えるため必要とする支援の優先順位を考慮し、最良の支援提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人お一人お一人の希望や思いを考慮した対応と共同生活の一員としての生活を共にできるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に安心していただけることをまず心掛け、コミュニケーションを良くし、ご本人の生活の場を作っている 又、月に一度は近況報告と写真を送付し関係を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当ホームにおける行事や催し、日常生活でのスナップ写真とともに都度情報提供を行っている。又、特に利用者さんのご家族とのコミュニケーションをし、各利用者さんにあつた支援をしている。	馴染みの方が少なくなり訪問者がある方が限られている。年齢も重ね全員での外出も少なくなったが、馴染みの富岡総合公園に花見などに行くようにしている。一人ひとりの思い出せることを精査し、話題にするように努めている。建物が木造の古い民家を利用しているので、利用者にとって馴染みのあるものになっている。	外出の回数も少なくなっても馴染みの場所の話題などを取り上げ、関係が途切れない支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の交流をする場として、歌の日・音楽の日と毎週決まった曜日を設け、コミュニケーションを図れるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も連絡は取るが、次第に疎遠になってしまう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が日ごろの日常会話や様子観察・対応の中で利用者さんの意向を引き出すよう努め職員同士の意見・情報交換により検討・意向に取り組んでいる。	生活歴やその人なりを理解し、日常会話の中で意向を確認、実現できるよう支援している。利用者全員が会話で意思疎通ができるため、ケアプラン更新時に利用者と面談時間を設け、思いを聞くようにしている。散歩の時や、誰もいない時などは意向が聞ける機会ととらえ、できるだけ話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや、家族からの聞き取りを参考に、本人とのコミュニケーションの中から生活歴を把握していくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の利用者さんの様子・状況を観察・把握し、お一人お一人が生活し、暮らしやすいように努め取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議にて利用者さんの一人一人の状況確認を行い介護計画更新時に、モニタリングとアセスメントを職員全員で行っている。本人とご家族の意向も、その都度聞き取りを行っている。	日頃の様子を職員全員でアセスメントし書面で課題を抽出している。ケアプラン更新時に利用者と面談時間を設け、希望を聞いている。全職員出席の定例会でケアプランを考える。毎日の実践状況をチェックし、モニタリングにつなげて半年ごとに評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子、状況をケース記録に記入をし、申し送りや連絡ノートに記入することで、職員の情報を共有している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応ができるよう必要な支援を職員全員で話し合い取り組んでいる。またその都度ご家族へ報告・連絡を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ケアプラザ・町内会参加による運営推進会議を2か月ごとに実践している。町内のお祭り・消防訓練への参加。又、ホームでの避難訓練に町内の方々にも参加いただきコミュニケーションを深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医として湘寿クリニックの往診とその主治医の指示により疾患部位の専門医への受診を行っている。又、ご家族の希望する医療機関への受診・支援している。	全員が協力医をかかりつけ医として往診を受けている。24時間対応体制がある。専門医や希望する医師への受診は家族が対応している。家族の都合がつかないときなどは職員が対応する。入院時は職員が付き添う。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	湘寿クリニックの主治医に状況や詳細情報を伝えている。体調不良時には、その都度電話で適切な指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	湘寿クリニックの主治医との連携を密にし、その都度支持を受けて医療機関との連携に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「緊急時の意向確認書」の同意書と「重度化した場合の対応にかかる指針」をお渡しし、看取りを行わないこと、退去の要件等を説明している。	入居時に「重度化した場合にかかる対応の指針」で、看取りをしないことを説明し同意を得ている。建物の構造上、車いすとなったら他施設に移ってもらうことや、重度になったら部屋替えを行うことなどを明文化し、機会をとらえて説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応手順マニュアルを作り職員が即時対応できるようにし、連絡網も作成、事態に備え、定期的な訓練も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会の方々の参加によるものと、利用者及び職員だけの消防避難訓練を年2回は必ず実施 災害関係の講習会への参加	2月に夜間想定火災訓練を行った。9月に日中想定火災訓練を行った際、近隣住民6名の参加があった。緊急時には井戸水が使えるので近隣住民との協力体制を合意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんと呼ぶ時、基本は姓を「さん」付けで呼んでいるがご本人の気持ちを大切にすることが時にはご本人が希望する呼び方にする時もある。 又、居室に入る時・介助する時は必ず声を掛け許可を取っている。	利用者を「さん」づけで呼び、職員が大切に思う気持ちを込めて支援している。生活歴や思いを理解し、理念にある「ダメなことをダメと言える関係」になるよう信頼関係の構築に力を入れている。居室の入口はドアでなくふすまであるが、入室する時は必ず声をかけ、断って入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さん一人一人とコミュニケーションを取り、話を聞き、そうした中で利用者さんの思い・希望を汲み取り大切にしていこう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんとよく話をし、何が望みなのかを把握して一人一人のペースに合う散歩の距離を考えたり・遊んだり利用者さん個々の希望に沿って対応するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った服装、ご本人の好みを取り入れ着たり脱いだりしやすく身体に楽なものを選び支援するよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすい形状や彩りも考え、目でも楽しめる工夫をしている。季節によっては当ホームの畑で収穫した野菜を皆で食し楽しんでいる。 食べた終わった食器は自分で下膳してもらっている。	管理者は地元の店やスーパーマーケットで食材を調達するようにしている。メニューづくりは2人の職員が専任し、調理は全員が順番で行う。旬や彩りにこだわり、話題を提供している。夏になると畑の野菜が食卓に上る。職員は同じものをテーブルで会話を楽しみながら食べている。利用者は下膳などを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養のバランスを考えてメニューを作成し、さらに利用者さん一人一人に合わせた量を考えて提供するようにしている。水分は食事の時の他10時・3時・入浴後にも水分補給をしてもらうよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声掛け・見守りの中口腔ケアを行い義歯清掃等は職員が介助をする。主治医の指示などを受けたりして一人一人にあった口腔ケアの対応に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間の声掛けやポータブルトイレ設置リハビリパンツやパッドの利用、交換など各利用者さんに対応した自立の支援を行っている	トイレは1階に一つ、2階に1つある。ほぼ全員が自立しているが、トイレの中で失敗するときがあるのでその都度職員がチェックし掃除をしている。手作りのマットを用意し、洗濯が簡単にできるようにしている。排便はチェック表があり、便秘気味になると医師と相談し投薬等を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者さん一人一人の排泄記録と飲食・運動、生活活動の把握と注意に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴は難しく曜日を設定させて頂いている。強制ではなくある程度拒否を受け入れ各利用者さんに合わせた会話や入浴方法を心掛け楽しい入浴を実施している。	週に3回の入浴を基本としている。入浴をあまり好まない利用者のために玄関わきの白板に「ゆっくり入浴する人」と利用者名が書かれている。利用者はそれを見て自分の入浴日を理解し入浴するようになった。浴室前に「湯」の大きな暖簾を掲げて湯治場のような雰囲気を作っている。入浴剤や、ゆず湯しょうぶ湯などの行事湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	パジャマ等就寝衣類は毎日洗濯し寝具も常時清潔にするようにして、さらに湯たんぽを使用したりトイレを暖房したり居室にポータブルトイレの設置などをして気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後に受診ファイル、連絡帳、申し送りにて薬の内容を記入、報告等で報告を共有し、薬ケースにも個別で薬の内容、説明を記入し確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での役割として、居室の清掃、洗濯物たたみ、食器拭きのお手伝い。その他にも簡単な作業を利用者さんの能力に応じてやらせている。レクリエーションや歌の時間を設けて楽しんでいただけるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日課としており天候や気温を考慮し利用者さんの体調や希望に応じコースを変えたり町内のお祭り等にも参加したり外出支援を行っている。	雨以外の日は毎日順番に散歩に出かけている。幹線道路から少し入った路地裏なので、車を気にせずゆっくり散歩ができる。車で日用品の買い物に行く事もある。毎年少し先の町内の広場で和太鼓の演奏を全員で聞きに行く。花見や遠足にも出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っているが、ご家族同意の許少額をお財布に入れ所持している。希望があれば職員と一緒に買い物に行き、ご本人が満足できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により手紙や電話等でご家族との連絡を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を保つよう努力をし季節感を大切にして、お雛様・クリスマスツリー・季節のお花等を飾り生活空間をもてるように努めている。	古井戸や路地のある一角に立地し、古い民家をそのまま利用した建物は、これまでの生活を思い起こさせる。広い縁側にテーブルを並べ広い庭を眺めながらゆったりと生活している。当日は玄関に雛飾りが飾られていた。春になると庭や畑の手入れを行う。利用者は体操やアクティビティを楽しげに行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを共用、相互交流の場として使用して利用者さん一人一人の決まった席も確保されている。 独りになりたい利用者さんはそれぞれの居室で好きなように過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・ダンス・テーブルなどの家具、夜間利用のポータブルトイレなど、各利用者さんの機能、動線に合わせ考慮した配置にしている。	和室にベッドを入れた各居室は押し入れもあり広々している。自宅から家具や仏壇を持ち込む利用者もいる。ほとんど私物を持ち込まない方には、事業所の備え付けの家具等を使ってもらっている。写真や作品でそれぞれ自分らしく部屋を飾っている。各室窓があり明るく、職員は換気に気を使っている。できる利用者は自分で掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者さんに合わせ、安全の為夜間のポータブルトイレの設置や肘掛け椅子の利用などできる限り自立した生活を送り機能低下を防ぐための声掛け、見守りの支援をしている。		

